
活動目標

《2》人材育成

〈住民の声〉

(1)人材・後継者の育成

- ①地区での様々な役員のなり手がいない。
- ②福祉委員の役割が分かっていない為、機能していない。
- ③高齢者サロンの開催など、地区の役員に責任と負担がかかっている。
- ④社協職員の人材教育が必要。

(2)福祉教育の充実

- ⑤福祉に関心が持てるような福祉教育が必要。

(3)ボランティア活動の活性化

- ⑥ボランティア活動の担い手・男性の参加が乏しい。
- ⑦ボランティアグループを増やして欲しい。

※サロンとは？

同じ地域に住む高齢者や子育て中の母親同士が気軽に集まってお茶会やおしゃべりをしながら情報交換などができる住民による自主的な場所づくり

※福祉委員とは？

小地域単位でご協力いただく委員さんで、見守り活動やサロンなど、身近な小地域で福祉活動をすすめて下さる方です。

■取り組み方法

身近な地域で見守り活動や高齢者サロンなど、福祉委員の方やボランティアの方などにご協力いただきながら進めています。

一部の人の負担にならず、地域での福祉活動を継続していくため、研修や福祉教育など皆さんに福祉の必要性を知ってもらえるように啓発活動や人材育成を進めます。

〈取り組みの内容〉

(1)人材・後継者の育成

- ①役員の必要性を知ってもらうため、地域の方に、様々な役員の役割を理解してもらえるように働きかける。
- ②福祉委員活動が浸透するよう、研修会等を開催して福祉委員の役割や地域福祉の必要性を理解してもらえるよう働きかける。
- ③役員の負担を軽減できるよう、地域での行事や組織体系など、見直しや工夫をする。
- ④社協職員の資質向上を図る。

(2)福祉教育の充実

- ⑤福祉教育を充実する。

(3)ボランティア活動の活性化

- ⑥ボランティア活動の担い手の育成・声かけを推進する。
- ⑦ボランティアニーズの発掘と活動を推進する。

